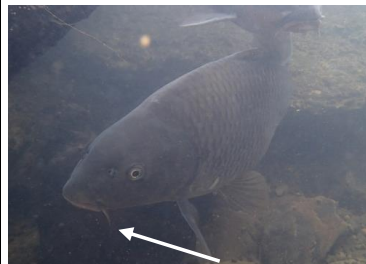


鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

古くから食用、観賞用として放流されて来ました。鹿児島県では産業管理種に指定され、島嶼を含む県内各地で確認されています。雑食性で、植物や底生動物など多岐にわたり食べるため、生態系への影響が懸念されています。現在、飼育しているコイは、野外に放流してはいけません。

1 基本情報

分類		
目・科名	コイ目コイ科	
種名(亜種名)	コイ	
学名	<i>Cyprinus carpio</i>	
環境省カテゴリー	—	
県カテゴリー	産業管理種	
由来	国内由来外来種	
侵略的外来種番付表	大関(島嶼)	
番付表掲載の理由	県民に周知することにより、被害を防止する効果が高いと考えられるもの	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的外来種ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	関東平野、琵琶湖、淀川水系、岡山平野、四万十川	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	江戸時代には養殖が開始され、古くから食用、観賞用として放流されてきた	
県内の侵入分布	島嶼を含む県内各地	
全国の侵入分布	古くから国内でのコイの放流が行われ、明治以降には外国産のコイも各地に放流されたため、広い範囲で在来集団への遺伝的攪乱が進んでいると考えられている	
生態学的特性		
生態	食性は雑食性で、貝類などの底生生物、珪藻や水草などの植物を食べる。 主に流れの緩やかな淵など、やや水深のある底層部、砂泥底に生息する。	
形態	全長約60cmで、まれに100cmを超える大型のものもいる。 口ひげは上あご後方と口角にそれぞれ1対、計4本ある。	
繁殖形態	繁殖期は4～7月。産卵は水生植物の多い場所で行われ、水しぶきを上げながら卵を水生植物に産み付ける。	
生息環境	大きな川の中・下流域から汽水域、湖、池沼。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①食性は雑食性で、両生類、魚類、水生昆虫、底生動物、植物など、多岐にわたり捕食することから、生態系全体への影響が懸念される。
県内で特に予想される被害	県内の両生類、魚類、水生昆虫、底生動物、植物などを食べる。生態系全体への影響が懸念される。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①天敵の不在。高い環境適応力。 ②食用、観賞用としての放流。
3 対策	
コイを見つけたら	飼育しているコイは、野外に放流してはいけません。
見分け方	コイには、口に2対4本のヒゲがあるため、フナ属と区別できる。
見かけやすい場所・時間	活動時間は日中。全国の河川、湖沼の流れの緩やかな淵に生息している。水質の汚染にも強いので、都心を流れる川にも生息している。
防除方法	釣り、刺し網などの捕獲による防除。
防除の取組事例	奄美市では、2015年に住用川と役勝川で捕獲調査を実施している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50550.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 南海日日新聞 2015年10月1日記事 http://www.nankainn.com/a-and-p/%e5%a5%84%e7%be%8e%e5%b8%82%e3%80%81%e5%a4%96%e6%9d%a5%e3%82%b3%e3%82%a4%e6%8d%95%e7%8d%b2%e3%81%b8 瀬能ほか(2008)日本の外来魚ガイド. 文一総合出版社. 東京